

10月のピックアップコーナー

「グリム童話」

照井 菜穂子

みなさんよくご存じのグリム童話。近年、このグリム童話を題材にした映画が続々と公開されていますが、多くの場合、物語の内容は原作通りではありません。しかしそこは映画、ハリウッド流の翻案(adaptation)として、新たなストーリー展開を楽しみましょう。

ところで、その「原作」も実は、筋書きが変えられているのです。例えば、グリムの赤ずきんは、フランスのシャルル・ペローの童話が元になっています。ペロー版では、おばあさんの家へ届けものに向かう赤ずきんに、彼女を食べるつもりで狼がそしらぬ顔で行き先や目的を尋ね、先回りしておばあさんを食べ、おばあさんの振りをして待ち伏せし、赤ずきんを食べる。ここで話しは終わります。そしてペローの教訓が続きます。やさしい顔をしていても男はオオカミだから、年頃の女性は気を付けなさい、と。

グリム版ではどうでしょうか。赤ずきんは寄り道をしてはいけないとお母さんから言われますが、狼にそそのかされて寄り道をします。おばあさんと赤ずきんは狼に食べられますが、猟師が狼のお腹から二人を助け出します。お腹に石を詰められた狼は死に、赤ずきんはお母さんの言いつけを守らなかったことを反省します。グリムでは、子どもは親の言いつけを守るよう教訓が込められています。

どうやら、童話で伝えたい内容は時代や国によって変わるようですね。21世紀の現代社会では、赤ずきんはどんなお話しになるでしょう。「…そこで、生存権が保障され、生活の質の向上が図られた狼は、森の環境保全に取り組み、人とともに持続可能な社会の実現を目指しました…」教訓は生物の多様性と共存、といったところでしょうか？

てるい なおこ (情報サービス課)

図書館の本はこのような使い方もされています。

社会に貢献した本学図書館の貴重書

本学図書館は出版社・博物館・テレビ局などに資料を提供しています。9月30日現在で14件の申し込みに対して資料提供の協力を致しましたが、すでに事業が終了したもののみをお知らせ致します。(洋書は日本語書名を表記しております。)

許可日	貴重書名	掲載書名(番組名・展示会名)	掲載依頼先
4月1日	ヘイ編『イエズス会士書簡集』(1605年) 『イエズス会(エヴォラ版)日本通信』(1598年)	NHK BS 放送 オンデマンド ハイビジョン特集「新発見 大坂図屏風の謎」	NHK ライツ・アーカイブセンター
4月23日	シーボルト著『日本』(1852年) より絵踏執行の図	『エプリスタディ小6』7月号 『エプリスタディアドバンス 小6 社会ハイレベル』10月号	(株)Z会

*これらの資料は、本学の所蔵であることを明記して使用されています。